

# 冷えてから播種



フロストシーディング

気温が十分に低下してから播種することで種子の発芽率を大幅に抑え、翌春の融雪後に牧草を発芽させる方法がフロストシーディングです。

これまで播いた種子が吸水してしまい、枯死してしまうケースも少なくありませんでしたが、いくつかのポイントに留意することで、釧路地方では高い成功率をおさめることができます。



## メリット

- ◇ 作業時期を確保しやすい 農閑期で余裕をもって仕事ができる
- ◇ 干ばつ被害を受けづらい 発芽期（4月下旬～）は土壌水分が豊富
- ◇ 雑草との競争に有利 春先、いち早く生育できる



## 留意すべきポイント（更新時）



- ✓ 時期 指標のひとつとして「日平均気温5℃以下～根雪始め」  
目安： 標茶 11月中旬以降、浜中・釧路 11月下旬以降  
沿岸部では11月下旬でも気温が上がることもあるので注意



- ✓ 草種 イネ科単播（マメ科の種子は吸水して枯死してしまう）
  - ・チモシー：種子が土壌に密着しやすく、定着率は良好
  - ・オーチャード：凍った土であると風に飛ばされやすい
- ✓ 播種量 通常の2～3割増し  
チモシーでは 2.5～3.0kg/10a
- ✓ 鎮圧作業 土壌水分が高い時期なので、ローラーに土が付着しやすい  
圃場がなるべく乾いている時にゴムローラーで行う  
あるいは土壌表面が凍っている早朝に行う

- ✓ 施肥 1～2葉期、圃場が“乾いている時”に行う  
トラクタの旋回は、なるべく優しく
- ✓ 圃場 平坦な圃場が基本  
傾斜地は種子が融雪水で流されやすいので不向き（写真3）  
風あたりの強い圃場では種子が飛ばされやすい
- ✓ マメ科追播 翌春1番草後、追肥とともにアカクローバ 0.5kg/10a 播種  
良好な定着が確認（播種後の鎮圧なし）～ 雪印研究農場の例



写真2 フロストシーディングで播種した圃場  
※雑草が非常に少なく、良好



写真3 融雪水により土壌流亡した圃場  
※フロストシーディングで播種した。流亡箇所は春に追播した。

フロストシーディングは完全更新ばかりでなく、作溝播種機（シードマチックなど）による追播でも対応可能です。この場合、鎮圧は必要なく、傾斜地でも土壌流出がおきません。

右写真のようにペレニアルを追播し、牧草の栄養価や嗜好性を高めることに



写真8 ペレニアルライグラスのフロストシーディングによる追播  
※ハーバーマッドで施工  
(平成24年12月2日撮影、別海町)



写真9 追播後2年が経過し、定着したペレニアルライグラス  
※株状に大きくなった個体が追播したペレニアルライグラス  
(平成26年10月9日撮影、別海町)

成功した事例もあります。

詳しくは、「北海道におけるフロストシーディング（初冬季播種）のポイント」（雪印種苗・谷津英樹主事）

